

「北極圏の犬ぞり」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

1995 年に、高校時代の友人と、どこか変わった場所に旅行に行こうと話し合った。エジプトの奥地、ガラパゴス諸島、アリューシャン列島、北バングラディッシュなど、普通のツアーでは行けないような候補地をたくさんあげた。最終的に、オーロラを見に行こう、ということで意見が一致し、ストックホルム往復の航空券を入手した。

現地ではオーロラ観望のほか、犬ぞり搭乗、スキー(寒い!)、スノーモービル、雪の森トレッキングなどのアクティビティを楽しめる。最初に行った時は犬ぞりを楽しんだ。



「北極圏の犬ぞり隊」

10~12 頭の犬がけん引する。氷点下 30℃でもワンちゃんたちは元気で、早く走りたくて吠えている。



「犬ぞり隊のハスキー犬」 よく走るし、賢い!

犬ぞりのコースは、主として凍った湖の上である。

氷の上に雪が 20 cm ぐらい積もっていて、その上を疾走するのだ。もちろん寒い。しかし、専用の防寒具を貸してくれるので安心だ。

犬ぞり隊がスタートしてしばらく、休憩で止まった湖の真ん中。あたりは真っ暗になって、突然犬たちが吠えだした。御者が “Norrskjen (ノルシェン!)” と叫んだ。Norrskjen というのはスウェーデン語でオーロラのことだ。見れば、ひとすじの透き通った緑色に光る帯が見える。凍った湖の上に、フワッと浮かんでいる。これが、私とオーロラとの最初の出会の一瞬だった。今でも、忘れられない一瞬である。



「北極圏の空にフワッと現れたオーロラ」



「森のソーセージグリル」

犬ぞり隊は、森の中で休憩し、その場でたき火をする。木の枝にソーセージをさして焼くのだ。あんなにおいしいソーセージはその後食べていない。